

# 門川町校務DX計画

## 1. 門川町教育振興基本計画及び宮崎県「教育の情報化推進プラン」について

第三次門川町教育振興基本計画の第3章～施策の展開～の施策8「社会の変化に対応した多様な人材を育む教育の推進」の中で、教員の授業等におけるICTの積極的な活用、校務を支援するために導入される「宮崎県統合型校務支援システム」の有効な活用を支援し、教育の情報化を推進、さらに、「宮崎県統合型校務支援システム」の有効活用により、校務処理のスピード・スマート化を図り、教職員がこれまで以上に質の高い教育活動に専念できるような環境づくりを進めます、とある。

また、宮崎県の「教育の情報化推進プラン」において、校務DXに関しては、以下の3つの取組を設定している。

### ①業務を支援するツールを活用した効率化の推進

教職員の業務の負担軽減を図るため、業務を支援するツールを活用し、書類作成や情報共有、採点・集計等の作業の効率化を進める取組を行う。また、校務の効率化に関する好事例について、事例集や動画などを、共通ポータルサイト等への掲載を通して広く周知していく。

### ②次期校務支援システムへの移行

次期校務支援システムへの移行に向けて、校務系・学習系ネットワークの統合によるデータ連携についての調査研究等の準備を着実に進めていく。

### ③校務における生成AIの活用推進

業務の効率化や質の向上を図るため、生成AIの校務における活用について、国の実証研究における実践例等の情報を各学校に提供するなど、校務における生成AIの活用が推進されるよう支援する。

宮崎県が設定しているこれらの取組について、情報共有を図りながら、関係機関と連携し取組を進めていく。

## 2. 校務DXチェックリスト自己点検結果における課題等について

「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリストの自己点検結果」（文部科学省・令和5年11月実施）を数値化した結果では、職員会議でのペーパーレス化や統合型校務支援システムの活用、オンラインを活用した研修などで一定の成果が見られたものの、クラウドサービスを用いた情報共有や集計等が課題となった。これらを解決するため、次の取組を行う。

### ①GIGA環境・汎用クラウドツールの活用

これまでクラウドサービスがあまり使用されていなかった現実があるため、クラウドツールを活用し、学習データ等を一元管理し、情報端末の活用状況を可視化する。また、これらのツールの活用が促進されるよう先進地域の事例を紹介したり研修を企画したりする。

## ②FAX・押印等の制度・慣行の見直し

教育委員会を含め、ほとんどの学校でFAXを活用している状況である。そのため、FAXではなく電子メールでのやり取りを主として、FAXや押印等の見直しを図っていく。

## ③教育情報セキュリティポリシーの策定

本町では「門川町立小・中学校情報セキュリティポリシー」を策定し、各学校へ周知しているが、パブリッククラウドの活用を前提とした内容でないことから、今後、国の方向性や現状を分析し、必要な改訂を行っていく。

## 3. 今後の校務支援システムの在り方について

校務支援システムについては、宮崎県統合型校務支援システム共同調達・運用協議会のもと、統合型校務支援システムの導入・運用を行っているが、現行のシステムはネットワーク分離によるオンプレミス型運用であり、学習系データと校務系データとの連携が不十分であり、自宅や出張先で校務支援システムへのアクセスができない等の課題がある。

そのため、今後の校務支援システムについては、国の「次世代の校務デジタル化実証事業」の成果を基に、クラウド環境で利用できる校務支援システムを展望し、宮崎県統合型校務支援システム共同調達・運用協議会において、議論を進めていく。

## 4. 今後の計画について

これらの状況を鑑みて、今後は以下の項目について校務DXに向けた取組を推進していく。

### ①クラウドサービスの活用

校務等におけるクラウドサービスの情報提供や研修の企画

### ②校務における生成AIに関する検討

校務における生成AIの活用について導入の検討を行う

### ③FAX・押印の見直しについて

FAX及び押印に関する実態把握と廃止に向けた動きを加速する

### ④教育情報セキュリティポリシーの改訂

国や県の方向性や現状の分析

門川町立小・中学校情報セキュリティポリシーの改訂